日刊
常磐新報
社開新磐常所行發
福島縣平町南町五九
發行人　伊藤孫次
福島縣小名濱町古港一

五月十一日夕刊

一ヶ月　三十錢
一部　二錢
廣告料　一行五十錢
場所指定　十錢增
日曜祭日翌日休刊

四百年の昔を今に

可憐馬上にかしこむ、幼き殿と家老

釜戸諏訪神社やつこ祭きのふ盛大に擧行

四百年前から七年に一度づゝ休みなく續いてきた、渡邊村釜戸の鄕社諏訪神社やつこ祭は昨十日本祭、折々襲つてくるしう雨にもめけず總勢七百名の大名行列が午前十時には神社を出發、途々古式どほりに毛槍を振つて泉驛前についたのは、午後四時であつた。二萬圓の費用と數ヶ月の準備をへて服裝も槍の振り方も全く四百年前と同じく、行はれるこの行列を見んものと、全國から詰めかけた觀衆は無慮十万、記者の拜觀した、泉驛前も身動きならぬ群衆であつた。　以下拜觀記——

やうやく雨がやんで待ち倦ぐんだ午後四時、遠い銃聲とともに陣笠陣羽織に身を固めた先驅が一騎駒に鞭をあて、前を疾驅して去つた。

銃聲は近つき、今にも行列よと見えたが色とりどりの長旗が七流吾々の前に靜かに止まつたのはそれから三十分後であつた。

どよめく群衆の前を華かに飾られた繩がすぎる。

續いて舟形の小さな神輿が白衣の氏子に護られ、揃ひの浴衣に花笠を負ひ尺の小鳥毛同じく大鳥毛に薄化粧した青年十二人のそれぞれ二人づゝ、最後が護つた長持がすぐ後に續く笠二つ入れた花輿、弓三間の大長柄で、これも二本。長柄も鳥毛もすべて鳥矢を持ちキリッとした武の羽で被つた槍のことで、家姿の八人の子供、その之れを「ハードッコイナノ背後から練つてくるのこナー」と云ふ莊重な懸聲とそやつこであつた。共にリウ〳〵として來なが奴の扮裝は膝までの黑いはら踊るのである。重い槍をんてんに帶をしめ、もゝ引はばかず素足に草鞋、木刀片手に手振り、足拍子腰のひねりすべて一絲亂れず肅を一本背中にしよつた昔ながらのお供姿、長さ一丈の大名行列である。

小長柄を持つ者が二人、九

前の長持も止まつて之れは尺八、拍子木の賑かな礒節おどり、一列に並んで心から樂しそうな歌聲である。

之れが大字松子屋の分で、あと中釜戸、上釜戸と都合三つ同じやうな奴行列が續く、殊に上釜戸のしんがりには、八歳くらいの殿樣がきらびやかな袴に大小刀を挾み、まるで人形のやうに馬に搖られてゐた。家老もやはり同年くらいで、見中深く埋れし石棺を深し當てゐる中に頻ずりしたくなる程の可憐さ、

この槍踊りは四十度行ふそうだが、神社に歸りついたのは今十一日の朝であつた。

小名濱の諏訪樣雨の御難

それでもめげずにわつしよいく!!!

朝來の雨に氣勢をそがれた小名濱お諏訪樣の春祭りはそれでも雨の晴間に朝から町内の人々の參拜引きもきらず午前十時愈々神輿は神社を出御、例年通りの道筋をぬかるみを先導によいしよ〳〵と練廻つた雨をいだいた。

曇天にもかゝはらず近在からの人出は數千に達し、神輿の行列を追ふて賑やかに神輿歸御前の最後のひとともみの時には七濱隨一の荒もみの盛觀を見んものと蝟集し街は云ふべくも無い離沓を呈した。

第二東丸、明日出帆

江名町中之作、高橋源太郎氏所有船第二東丸はカムチャツカに出漁すべく鋭意準備中であつたがこの程完了したので明十二日出帆することになつた

乘組員は熟練な船長山田秀松氏以下十三名であるが　高橋氏は當地方におけるカムチャツカ出漁の先驅者で昨年も自己經營で出漁僅か三ヶ月半の漁季に一万圓の儲けを見たと云はれてゐる。

政友會鈴木佐藤兩代議士の六十七議會報告演說會

愈々來る十八日と決定す

既報石城政友部會總會は今晩北東の風曇り一時晴れ愈々十八日午後一時から開く、鈴木佐藤兩代議士並に本部特派員として牧野良三田子一民、貴族院議員宮田光雄諸氏等應援演說に來る筈。

◇平町劇休事務所に於て、石城販賣利用組合では菜種油搾取工場建設に關する協議會を本日午後一時開からかれた。

◇平町では日露戰捷三十週年を記念して日露出征勇士五十二名に記念品を贈る事になり、十三日午前十時から町會議事堂で授與式を擧行する。

天氣豫報

今晩北東の風曇り一時晴れ明日北東の風曇り後雨模樣

團旗樹立式後報

小名濱町中町青年團

既報九日午後一時から小學校講堂で行はれた小名濱中町青年團團旗樹立式は役員三青年團團旗樹立式は役員二十余名來賓百余名團員百五十名に達し

一、擧式の辭
二、國家合唱
三、勅語奉讀
四、團長式辭
五、團旗樹立
六、來賓祝辭

式辭

本日ノ佳辰ヲトシ團旗樹立式ヲ擧行スルニ際シ有志諸賢多數ノ來臨ヲ忝フシタルハ本團ノ最モ光榮ニシテ寔ニ欣幸ニ堪ヘサル所ナリ

惟フニ國家盛衰興廢ノ岐ルヽ所ハ國民精神元氣ノ消長如何ニアリ國民元氣旺盛ナレバ國家ハ益々榮ヒ國民元氣衰フレハ國家ハ自然ニ亡ブルハ言ヲ俟タズ　吾々青年ハ國家ノ中健ニシテ國民元氣ノ源泉ヲナスモノナリト信ズ

吾々青年ハ敎育勅語ト年青ニ賜ハリシ御令旨ノ御趣意ヲ奉体シ忠孝ノ本義ヲ明カニシ常ニ智德ノ修養品性ノ向上ヲ圖リ体力ノ增進ニ努メ質實剛健ナル氣風ヲ涵養シ而シテ健全ナル國民善良ナル公民タルノ素質ヲ養ヒ以テ地方開發ニ資セントス

而シテ青年元氣ノ涵養振作ニハ團体ノ力ニ俟タサルベカラズ團体的活動ヲナスニハ中心トナスベキ一定ノ標識ヲ必要トス

即チ軍隊ニ於ケル聯隊旗又消防組ニ於ケル纏ノ如キ之ナリ　於茲團ノ旗必要を痛感シツヽアリシモ其ノ資ヲ得ルニ道ナク窮々タリシニ幸ヒナル哉當部落協議員各位ニハ青年團ヲ理解シ團ノ發展向上ニ大ナル關心ヲ寄與セラレ這般多額ノ補助ヲ決議セラレタルヲ以テ急速ニ之ガ新調ヲナシ得タル次第ニテ誠ニ欣快之ニ過キズ協議員各位ニ對シ深甚ナル感謝ノ意ヲ表スト共ニ使命ノ重且ツ大ナルヲ感ズルモノナリ

吾々青年團員ハ潑溂タル燃ユルガ如キ元氣ヲ鼓舞シ益々舊勵努力協同一致此光輝燦爛タル團旗ノ如ク本團ノ名聲ヲ發揚シ以テ諸賢ノ厚意ニ酬ヘンコトヲ期ス　希クハ將來共ニ吾々青年團ノ爲ニ一段ノ御指導御鞭撻ヲ賜ハランコトヲ誠衷ヲ披瀝シ以テ式辭トス

昭和十年五月九日

中町青年團
團長　岡山重喜

五、團旗樹立式ヲ擧行スルニ際シ有志諸賢ノ來臨ヲ忝フシタルハ本團ノ最モ光榮ニシテ寔ニ欣幸ニ堪ヘサル所ナリ

惟フニ國家盛衰興廢ノ岐ルヽ所ハ國民精神元氣ノ消長如何ニアリ國民元氣旺盛ナレバ國家ハ益々榮ヒ國民元氣衰フレハ國家ハ自然ニ亡ブルハ言ヲ俟タズ　吾々青年ハ國家ノ中健ニシテ國民元氣ノ源泉ヲナスモノナリト信ズ

吾々青年ハ敎育勅語ト年青ニ賜ハリシ御令旨ノ御趣意ヲ奉体シ忠孝ノ本義ヲ明カニシ常ニ智德ノ修養品性ノ向上ヲ圖リ体力ノ增進ニ努メ質實剛健ナル氣風ヲ涵養シ而シテ健全ナル國民善良ナル公民タルノ素質ヲ養ヒ以テ地方開發ニ資セントス

而シテ青年元氣ノ涵養振作ニハ團体ノ力ニ俟タサルベカラズ團体的活動ヲナスニハ中心トナスベキ一定ノ標識ヲ必要トス

即チ軍隊ニ於ケル聯隊旗又消防組ニ於ケル纏ノ如キ之ナリ　於茲團ノ旗必要を痛感シツヽアリシモ其ノ資ヲ得ルニ道ナク窮々タリシニ幸ヒナル哉當部落協議員各位ニハ青年團ヲ理解シ團ノ發展向上ニ大ナル關心ヲ寄與セラレ這般多額ノ補助ヲ決議セラレタルヲ以テ急速ニ之ガ新調ヲナシ得タル次第ニテ誠ニ欣快之ニ過キズ協議員各位ニ對シ深甚ナル感謝ノ意ヲ表スト共ニ使命ノ重且ツ大ナルヲ感ズルモノナリ

吾々青年團員ハ潑溂タル燃ユルガ如キ元氣ヲ鼓舞シ益々舊勵努力協同一致此光輝燦爛タル團旗ノ如ク本團ノ名聲ヲ發揚シ以テ諸賢ノ厚意ニ酬ヘンコトヲ期ス　希クハ將來共ニ吾々青年團ノ爲ニ一段ノ御指導御鞭撻ヲ賜ハランコトヲ誠衷ヲ披瀝シ以テ式辭トス

昭和十年五月九日

中町青年團
團長　岡山重喜

既報九日午後一時から小學校講堂で行はれた小名濱中町青年團團長西山直三郎氏の祝辭

七、閉會の辭

の順序で滯こほりなく式を終り折から降り出した雨を幸ひと腰をおちつけ來賓一同ゆつくりと祝の盃をあげて歡談した。

團長岡山重喜氏の式辭は左の通り

小名濱消防組頭松本德次郎氏と小名濱青年團長西山直

筆頭禪

龍ケ崎仙人

盡忠古今を貫く大楠公六百年祭も目睫に迫る、國家は匿れて自己負擔輕減の逃避當に是れ非常時。湊川一帶場を求めんとしたるは眞に の盛や思ふべく其振や掬す卑劣の至り該町が海産物加べし。偉人業拜の念こそ大工唯一の地帶なる事を知る和民族の誇り

× × ×

太清左工門氏の縣議は馬鹿や識らずや軈て汝等何の顏巷間傳ふるを聽く。洵に待色あり て地方人に見えんと望の至り。曰く其の人に非する時代錯誤も程度問題なずむば其の苦痛を知らずと異業代表を拉し來つて海洋開發の精隨にふれんとするは木に仍つて魚を捕ふるの類ひ、一知半解の政黨欲に軀られて其傀儡と化するこそ眞に地方是百年の計を誤るもの。

× × ×

畏友吉田正雄君重患の冒すところとなり靜養之を久しうするを聞く。電般同君仙臺地方に轉療すと、而して回春の一刻も速かならん事を祈るもの豈筆者のみと言はん、世人稍々もすれば其業跡の非に仍つて寧ろ輕薄的批判を試みんとする眞に轉舉殘忍の極み、人格の人として物欲に恬淡なりし而して其公平の念に於て蓋し地方同君の右に出するもの稀なり。英雄も數奇なれば空しく蹉跎のもとに朽つる事なり。

× × ×

江名町水道工事の進渉日ざましきものあるは同欣の次第なり、町費過大の美名に匿れて自己負擔輕減の逃避場を求めんとしたるは眞に卑劣の至り該町が海産物加工唯一の地帶なる事を知るや識らずや軈て汝等何の顏色あり て地方人に見えんと窓にはサラ〳〵と和やいだ快い朝の陽が一杯に當つてゐた。

『堪忍して、昨夜……あんまり呆れた？』

そつと男を搖り起してさう言ふ女の色ぼさを、しみ〴〵と體に感じながら牧はもう一度、とろ〳〵とまどろんでゐた樣に打ち溶けてゐた。

『もう歸らう。』

『かへる？』

『ん、さういつまでも居られないし、それに』

『だつて……まだ……。』

末練そうにすねて向ふをむいた女の白い襟足を牧はぢつと見つめながら、

『もう十時だし、それに一寸家へ歸つてみないと工合も惡いし……。』

『そう、だつたら妾も一緒に家迄行きますわ』

『冗談ぢやない。そんなに家迄行きますわ』

『だめ！だめ！　妾、牧さんにだけ、介抱して貰ふんだから』

『ほんと!!』

と、いつてぢつと、牧の手を握つて離さない女を、千秋はくるりとこつちを向いて、しばらく考へ込んでゐたが、嬉しそうに、

『そんなら、ちよつとこゝの家郷合の惡い事があるのだから妾、千鶴屋の前の「大和」で待つてますわ、嘘ついちやだめよ』

牧はかうして千秋と別れたが、何かしら浮々したものが、熱く胸一杯にこみ上げて來た。

同じ思ひの千秋も、牧の後姿を、いつまでも〳〵籠濕窓からぢつと、見送つてゐた。

紅い燈

事舊聞去る七日夜十時頃江名町中之作カフエー**ハマミ**で同町永崎朝鮮飯場の土工五名と折戸の船員某君とが ソウレッな撲り合ひを初めたが多勢に無勢の悲しさ滅く醉ひ倒れてしまつて他の警官が駈けつけた時には妓達が、心配して傍に早くも一同雲を霞と行方寄るのを追ひ拂ふ樣にしながら、

『だめ！だめ！　妾、牧さんにだけ、介抱して貰ふんだから』

と、いつてぢつと、牧の手を握つて離さない女を、千秋はくるりとこつちを向いて、しばらく考へ込んでゐたが、嬉しそうに、

『そんなら、ちよつとこゝの家郷合の惡い事があるのだから妾、千鶴屋の前の「大

をくらまして居たが、十工連は懷中無一文なので勘定踏み倒しのために喧嘩を吹つかけたらしい中之作には水道工事や埋立工事で多數の土工が入り込んでゐるのに駐在所が空いてゐるので喧嘩のゆかなかつたし、膝をこぼ絶え間がなく、住民は悩れる、四田の紅い長襦袢にも、心を唆られる樣な思ひ

短編花柳小説

山霧

遠藤紳一郎作

—【三】—

昨夜の雨も止んで、籠濕がした。

それに牧の性格と、千秋の不敵さとは、その晩から妙に呼吸の合ふものがあつて、今迄知つたどの女からも、またどの男からも得られないものを心に感じ合へたのだつた。

たつた一晩で、もう五年も、十年も馴染んだひとの樣に打ち溶けてゐた。

はリスク
資生堂
小名濱町
電話一四七番

小名濱分院開設
毎週月、水、金、午后五時出診
耳鼻咽喉科專門
大和田醫院
本院　平町南町一六
電話平一七〇番

は擇撰の合柄
商品豐富な店
江尻吳服店
商號　西村屋
通稱　タイモン
小名濱町横町
電話二十四番

クスリと家庭醫療の御相談は親切の店
白石藥舗
小名濱町中島通り
電話三三番

◎工場擴張報告◎
工場新築增設三十坪を加へ工場機械整備各位の御注文に對し技術改善は勿論廉價迅速に製作可仕候間倍舊の御愛顧を希上候
昭和十年五月五日
技術改善
製作品種目
高壓タービンポンプ
電動捲揚機械
シロッコ旋風機
コールクラッシャー
送炭用チエソコンベヤー
良品廉價
福島縣平町字堂前
合資會社　吉伴製作所
電話平二二五番

一般外科、（整形外科）
內科　花柳病科
草野醫院
小名濱町（郵便局隣）

靴文註
5.00より
修繕
1.00より
1.70まで
小名濱町（郵便局東隣り）
平屋靴製造店